喜久 自信になる完売御礼！

障がい者施設製品を市役所ロビーで販売

久喜市役所1階ロビーで「障がい者施設製品販売会」が同市自立支援協議会はたらく部会の主催で行われ、「あかり学園久喜」（青毛）が2月19日にお菓子を販売し、好評を得ました。

一生懸命に応対をするあかり学園メンバー

市の障がい者施設では、自立促進に向けて製品を作っています。ところが、社会参加につなげるための販売する機会の確保が課題です。

そこで今回、試験的に大勢が来庁する市役所のロビーで1月22日から3月25日までの毎週水曜日に5つの事業所が交代で販売会を実施することになりました（現在は新型コロナウイルス感染症対策のため休止）。

当日は、同学園の利用者4人と職員2人が、せんべい、おかき、大福を100～300円で販売。「いらっしゃいませ」の元気な声に誘われて多くの来庁者が立ち寄り、昼休みには市の職員も訪れ大にぎわいで、人気の大福は早々に完売しました。また、利用者が「ありがとうございます」と言って商品を手渡すと、買い物客も笑顔で「ありがとう」と応えるほほ笑ましい交流の様子も見られました。

同学園を運営するNPO法人「あかり」の小林誠さんは「こういう社会体験ができるのはとてもうれしいし、自信を持ってもらえると思います」と思いを語りました。

買い物した市内の竹橋香さん（41）は「障がい者への理解は高まっていると思うので、こういう場を知ってもらって地域とのつながりが出来れば良いと思います」と話し、また、森谷明夫さん（76）は「ここだと大勢来てたくさん売れるから励みになるので良い試みだと思います」と評価しました。

同学園の酒井翼さん（19）は「大福も完売、ほかの物もたくさん売れてうれしかったです」と話し、川口結愛さん（19）は「大福が完売して良かったです。お客さんが喜んでくれてうれしいです」と喜びました。

同じく同学園の渡邉愛佳さん（19）は「いっぱい売れたので、次はもっと持って来ます」と話し、宮地岳さん（19）も「たくさん売れてうれしいです。次も頑張ります」と意気込みを語りました。

埼東よみうり 2020年3月20日号 掲載